

Lower eyelid retractors (LERs) の皮膚穿通枝作成法術後の若年者 epiblepharon（睫毛内反症）に対して、写真での術前後評価に関する臨床データの研究利用についてのお願い

研究の概要・背景

アジア人に多い epiblepharon（睫毛内反症）は、若年者に多く発症し、びまん性表層角膜炎や角膜びらんによる疼痛や羞明、また惹起乱視を引き起こし、弱視、視力障害の原因となっています。現在までに Modified Hotz 法や Hotz-Celsus 法（皮膚と眼輪筋の切除および瞼板への固定）を含むいくつかの手術法が epiblepharon の手術加療に用いられており、その低矯正率や再発率は 4.9% から 23% です。これらの方法では、再発率の問題とアジア人の多くが存在しない下眼瞼の不用意な皺が術後発生しやすく、整容上で望ましくないと考えられています。また、先天的に瞼板の厚みが薄い、高さが低いなど、脆弱な瞼板である患者さんもいます。このような理由から、我々は下眼瞼の瞼板に糸を通さず、瞼縁眼輪筋に LERs 前層を直接縫合して皮膚穿通枝を形成する手術法を行っており、良好な成績をあげています。それらの患者さんに対して、写真での術前後評価（再発率、lower eyelid crease の有無、角膜睫毛角および Margin-to-Reflex-Distance 2 などについて）を後ろ向き研究することを目的とします。

試料・情報の利用目的・方法（他機関への提供を含む）

手術前後に外来で撮影された前眼部写真、術前・術後の眉毛から鼻翼までの顔面写真と眼瞼の写真を使用して、手術前後をデータ化して改善度合いを解析します。

対象者・期間

前述の手術を行った 2021 年 1 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの下記の基準に該当された患者さん。

- (1) Epiblepharon に対して前記手術を施行した症例
- (2) 本研究の参加にあたり十分な説明を受け、本人の自由意思および未成年であれば保護者の自由意思による同意が得られた症例
- (3) 成人であれば同意能力のある症例
- (4) 性別は問わない

データ利用のお願いと申し出について

これらの臨床データは通常の診療で記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究において臨床データの利用を希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡ください。研究不参加を申し出られたとしても、患者さんが不利益を受けることは一切ありません。

【お問い合わせ先】

長岡赤十字病院

担当医師：

〒940-2085 新潟県長岡市千秋 2-297-1

電話：0258-28-3600(代)、FAX：0258-28-9000(代)